

ものである。しかし四部叢刊本以外の「說苑」を讀まんとする人の爲に、四部叢刊本と他の十四種の刊本との丁數の比較表をも副へてある。

漢字の索引は字形のみでは不十分であつて、字音の索引を必要とする場合も少くないから、羅馬字で示した發音をアルファベツト順に索引を設けて發音からも索引出来るやうに編してある。

要するに索引の業は今日ではまだ未だ十分に進歩せざるもの、むしろ將來の發展に待つべきものがある。本書は新發明の皮韻法によるなど注目すべき新研究を多く含んでゐる。多數の說苑の讀者を益することが大であるのみならず、將來の索引編纂業に教へる所も大であらう。(紹介者 高橋俊乘)

寄贈圖書

引得 第一號 說苑引得

燕京大學圖書館編纂 定價〇・八ドル

寄贈雜誌新聞

哲學雜誌 昭和六年八月 五三四號
 丁酉倫理會講演集 同七月 三四五輯
 學校教育 同八月 二一八號

倫理研究	同八月	一卷八號
社會學徒	同八月	二五號
學園日記	同八月	八卷七號
生理學研究	同七月	二二〇號
奈良縣教育	同八月	十年八號
願 慧	同八月	
帝國大學新聞	昭和六年七月二十七日	